

1

【出題の意図と対策】

稲垣栄洋『競争「しない」戦略』からの出題。日本人の虫や自然に対しての向き合い方や、西洋とのちがいについて述べた文章。(1)では四字熟語の知識を問うた。(2)では、文章内容を的確に理解し、ふさわしいものを選ぶ力、(3)では、文章内容を理解して説明する力、(4)では、自分の考えを短くまとめる力、(5)では、筆者の主張をとらえ、まとめる力を試した。

【解答】

(1) (例) 一石二鳥・朝にランニングをすれば、早起きも体力づくりもできて一石二鳥だ。

(2) ④

(3) (例) 西洋の人たちにとっての自然は支配する対象であったのに対して、日本人は自然の一部で、自然に内包される存在であったから。

(4) (例1) 部屋の電気をつけっぱなしにしないようにクラスに呼びかけたり、ポスターを作ったりして節電を広める。

(例2) 家ではなるべくエアコンを使わないようにして、窓を開けたり服装を変えたりして体温調節をする。

(5) (例) 日本人は昔から自然の脅威と全力で向き合ってきたいて、自然に尊敬の念を抱き、友情が芽生えていたから。
(別解) 日本人は自然と対等な関係にあり、厳しい戦いの中で、尊敬の念を抱いたり、友情が芽生えたりしたから。

【解説】

(1) 漢数字をふくむ四字熟語はたくさんある。特に、「一」を用いたものは多い。「一石二鳥」と似た意味の四字熟語には「一挙兩得」がある。また、「千」を用いたものには「一日千秋」（待ちこがれて、日々が長く感じられること）、「百」を用いたものには「百戦錬磨」（多くの経験をしてきたえられていること）、「万」を用いたものは「千変万化」（いろいろと変わる）などがある。知っている四字熟語は意味もしっかり覚えておくことで、例文作成にいかすことができる。

(2) 最初の四段落に着目する。日本は虫を愛する民族である、と紹介されている。害虫は「虫」というあつかいで、駆除したら飼育するほどであるが、カブトムシやクワガタのように害虫を飼育するとは述べられていない。雑草や害虫について「単純な悪者ではなかった」と述べられているので、④がふさわしい。

(3) 傍線部アのあとから、西洋と日本の考え方のちがいについて書かれている。指定語句の「支配」と「内包」に着目すると、自然を支配する考えであるのが西洋の考え方で、人は自然に内包される存在であるという考え方が日本の考え方であるとわかる。「内包」とは、漢字のとおり、内側にふくみ持つこと、という意味である。この二つの指定語句をふくむ段落の内容をまとめる。

(4) 環境問題に対する意識は、人それぞれである。暑さが厳しければ、エアコンを節約することは難しいだろう。車移動を徒歩移動にする、自炊を心がけてごみを減らすなど、それぞれができることに取り組むとよい。ふだんから取り組んでいることや、家族が取り組んでいることなどを簡潔にまとめる。

(5) 最後の三段落に着目する。「憎らしくも愛すべきライバル」とは、日本人にとって雑草は見過ぎせない不都合はありながらも、(2)で考えたように、単純な悪者にはできない存在であるということである。それは、雑草と日本人は、いつも対等な関係で、同じ土壌で向き合い、おしつおされつの厳しい戦いをしてきたことが理由である。長い間戦ってきた相手には、お互いの意志を認め合う、友情やライバル意識も芽生えることもあるということがある。

2

【出題の意図と対策】

自分の体験を思い起こして、テーマにそった内容を導く力、整理して書く力、作文の条件に従って適切な内容を述べる力、筋道を通して文章を書く力、指定された要素を織り込みながら自分の考えをまとめる力をみる。

【解答】

(例1) 環境保護

環境保護をする上で大切なことは、自分一人くらいという気持ちをもたないことだと思う。例えば、海洋プラスチックごみが海をよごしたり、海の生物に大きな問題を引き起こしたりしている。エコバッグを使うことが今は当たり前になったが、取り組みが始まったころは自分一人くらいエコバッグを使ったところで、という思いをもつ人も多かったと思う。小さなことでも環境によいと思うことは積極的に実行するべきだ。

(例2) 動物愛護

私は犬を飼っている。それがきっかけで、犬などの動物を特集しているテレビ番組や動画を見るようになり、飼い主に捨てられたり、必要以上のはんしよくをさせられたりする動物がいることを知った。「かわいい」という感情だけで動物と接するのではなく、そのかわいさは「命」であることを意識することが大切であると考える。動物も人間も、対等な立場でおたがいを大切にすることを心がけることが動物愛護につながるのではないだろうか。

【解説】

環境保護の問題は、身近なところにある。環境保護も動物愛護も関わったことがないとは考えないようにすることが大切。自分の生活をふり返って、メモを書き、作文にできそうなテーマを考えよう。例えば、ごみの問題。自分が出しているごみのことを考えてみるとよい。分別したり、ごみの量を減らす努力をしたり、何かしらの工夫をしているだろう。そういう取り組みの中で大切にしていることをメモに書き、まとめてみよう。

3

【出題の意図と対策】

岡山市の行政に関する複数の資料を題材として、資料から読み取った内容を関連づけて説明する力、社会的事象に対する思考力や判断力、表現力をみる。

【解答】

(1) (例) 最も重要だと考えられているのに、最も市民の満足度が低い、洪水・浸水の対策に取り組むべきである。

(2) (例) 人口が短期間で急増していることから、市町村どうしの合併が理由だとわかる。

(3) ア (例) 予算が増えることで、サービスを充実させることができる。イ (例) 受け持つ業務の種類が減ることで、時間やお金を他の業務にあてることができる。

【解説】

(1) 資料1より、岡山市民の考える政策・サービスの重要度で、洪水・浸水の対策が最も高いことがわかるが、資料2より、岡山市民の政策・サービスに対する満足度では洪水・浸水の対策が最も低いことがわかる。

(2) 資料3より、一九七〇年前後に市の面積が急拡大しただけでなく、人口も大きく増加していることから判断できる。

(3) 政令指定都市は、市の中に区が設置され、税金の使いみちなどを独自で決めることができるなどの権限があたえられている。